

第11回伝統文化大会指定課題・解説 指定課題統一イメージ「動く」

第11回全国書写書道伝統文化大会（全国年賀はがきコンクール、全国学生書き初め展覧会）は令和5年1月20日（金）に締め切り予定です。コロナ禍に耐え忍ぶ月日が続いています。防疫に完璧を期しながら、夢に向かって、希望に満ちて動き出そうではありませんか。

そうした気持ちで、当大会指定課題を構成しました。時節柄、指導者の負担軽減も考慮し、手がけたことのある過去の出題課題から選出しました。出品料等は同大会実施要項にあります。皆さん、奮って応募しましょう。

◆使用漢字

学年後半のコンクールなので、該当学年で習う漢字を使っています。令和の令は4年生配当、元旦の旦は中学生で習う常用漢字です。

◆用紙の大きさ等

用紙の大きさ、名前の書き方などは、第11回実施要項の出品料等まとめた出品規定表にあります。ご参照ください。

自由課題（書き初め展のみ）は、学習指導要領に準拠

全国学生書き初め展には自由課題の部があります。自由課題文言は書写書道教科書からとるなど自由ですが、使用する漢字の学年配当等について学習指導要領に準拠していることが求められますのでご注意ください。つまり、その学年ではまだ習っていない漢字は使えません。何という文言を書いているか、出典名を作品の下に貼る出品票に（出典元がある場合は必ず）お書きください。

課題の文言が同じでも用紙の大きさが違えば3点まで応募できますが、審査結果による授賞は再上位の1点だけとなります。

全国年賀はがきコンクール＜指定課題＞

* 指定用紙は書文協作成応募用紙または日本郵便はがき（詳細は書文協へ）

◆年少・年中 うさぎ （なまえ）



◆年長

おめでとう
(なまえ)



◆小1

おめでとう
げんきにあいさつ。
五年正月
小一（しめい）



◆小2

おめでとう
早ね早おきをまもろ
うね。
五年正月
小二（しめい）

◆小3

おめでとうございます
上手に泳げるよう
になりたいです。
五年正月
小三（しめい）



◆小4

新年おめでとう
ございます
毎日ジョギングする
努力をします。
令和五年正月
小四（氏名）

◆小5

明けまして
おめでとうございます
勉強も運動も、去年以上に
がんばろうね。
令和五年正月
小五（氏名）



◆小6

新年おめでとう
ございます
今年は二人とも中学生。
勉強も部活もいっしょに
がんばろう。
令和五年正月
小六（氏名）

◆中学（楷書、行書同一）

明けまして
おめでとうございます
今年は知識から抜け出し、
体験へと飛び込んでみたい
と思います。
令和五年正月
中一、二、三（氏名）

◆高・大・一般（行書）

恭賀新年
美しい富士や清らかな湧水
をどの季節に訪ねようか、
今年は実行したいです。
令和五年正月
（氏名）



全国学生書き初め展覧会＜指定課題＞

* 指定課題の用紙は、幼年～小2は半紙、小3～中3は八ツ切、高校・大
学生は半切です。（他自由課題の用紙等、実施要項を参照）

◆年少・年中 う
（なまえ）

◆年長 え
(なまえ)

◆小1 とぶ
小一 (しめい)

◆小2 はる
小二 (しめい)

◆小3 生きる力
小三 (しめい)

◆小4 元気な子
小四 (氏名)

◆小5 力強い声
小五 (氏名)

◆小6 全力投球
小六 (氏名)

◆中1 (楷書・行書) 頂上に挑む
中一 (氏名)

◆中2 (行書) 力強い前進
中二 (氏名)

◆中3 (行書) 強行者有志
中三 (氏名)

◆高校

<漢字> 十有五而志于学

<かな> 元日や上々吉の浅黄空 (一茶)

◆大学

<漢字> 大道無門千差有路

透得比関乾坤独歩

<かな> 熱田津に船乗りせむと月待てば

潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな



課題解説

課題解説は教場の指導者を対象に書いています。コンクール出品を機に、生徒さんと課題を巡る話が交わされることを期待しています。

<全国年賀はがきコンクール>

◆小4 ジョギング

歩くウォーキングの延長でゆっくり走るのがジョギング、さらに息が弾み、速く走るのがランニングといえます。楽しみながら健康を増進するために、気楽な気持ちでジョギングに取り組むといいでしょう。

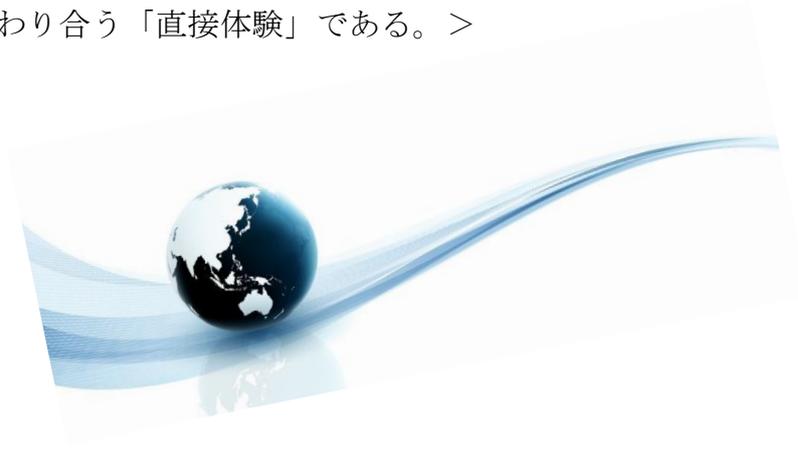


◆中学 知識から体験へ

知識から体験へ、を強調しているのは、体験活動の教育的意義を重視しているからです。体験活動とは、自分の身体を通して実地に経験する活動のことです（文部科学省ホームページから）。

しかし、ネットの普及などで私たちは間接的に、あるいは疑似的に体験する機会が増えています。ネットのゲームをすることで、何か別の世界で動き回ったような気分になりませんか。あるいは、昆虫採集にしてもネットで立派な標本集が見られますね。自分の手で、蝶やトンボを捕まえることが実地の体験活動です。

（以下、同ホームページから）<しかし、「間接体験」や「疑似体験」の機会が圧倒的に多くなった今、子どもたちの成長にとって負の影響を及ぼしていることが懸念されている。今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」である。>



◆高校 賀詞について

年賀状などに使うお祝いの気持ちを表す言葉を「賀詞（がし）」と言います。二文字や四文字などのものや文章など、いくつかの種類に分かれてますが、目上の人に出す年賀状では4文字の賀詞を使うと良いでしょう。

課題の恭賀新年（きょうがしんねん）は、うやうやしく新しい年をお祝い申し上げます、の意味。謹賀新年（きんがしんねん）の謹（つつし）んで・・・より、もつと相手に敬意を示す賀詞です。

<全国学生書き初め展覧会>

◆中3 強行者有志

（読み）強（つと）めて行なう者は志有り。

（訳）老子（中国春秋時代における哲学者）の書物『老子』はまたの名を『老子道德経』という。その3章にある言葉。

自分を励ましながら行動する者が、その志すところを得る、という意味。この「強行者有志」の前に「知足者富」とある。満足を知っていることが（真に）富むことである、という意味で、この1対の言葉を座右の銘にしている人は少なくない。



◆高校<漢字>

十有五而志于学

（読み）じゅうゆうごにして 学に志す

『論語』に出てくる有名な一節。論語は、孔子（紀元前5, 6世紀、中国の春秋時代の思想家）の言行を弟子たちがまとめたもので、そこでは孔子が一生を回顧して、その人間形成の過程を述べている。

全文とその意味は以下の通り。

(原文) 吾十有五而志于学 三十而立 四十而不惑 五十而知天命
六十而耳順 七十而從心所欲、不踰矩
※不踰矩=矩(のり)を踰(こ)えず

(訳) 私は十五歳のとき学問に志を立てた。三十歳になって、その基礎ができて自立できるようになった。四十歳になると、心に迷うことがなくなった。五十歳になって、天が自分に与えた使命が自覚できた。六十歳になると、人の言うことがなんでもすなおに理解できるようになった。七十歳になると、自分のしたいと思うことをそのままやっても、人の道を踏みはずすことがなくなった。

◆高校<かな>

元日や上々吉の浅黄空 一茶

江戸時代の俳人、小林一茶の作。「上々吉」(じょうじょうきち)とは、このうえなくよい、という意味。「浅黄」(あさぎ)は、わずかに緑色を帯びた薄い青色のこと。

今年の元旦は、とびきり上等の元旦だ。真青な空もなんと気持ちのよいことか、というめでたい句。



◆大学<漢字>

大道無門千差有路 透得此関乾坤独歩

(読み) 大道無門(だいどうむもん) 千差路(せんさみち) 有り

此の関(かん)を透得(とうとく)せば 乾坤(けんこん)に独歩せん

(訳) 大きな道路には門がなく、四方八方にあけっぱなしである(千差路有り)。この無門の関をつらぬいて大道に至ったならば(透得せば)、その人は大手をふって天地(乾坤)を歩くことができるであろう、という意味。

中国の仏教書「無門関」(禅僧、無門慧開著:むもんえかいちよ)にある言葉で、仏道に一定の入り方はない、という意味だとされます。

◆大学<かな>

熱田津に船乗りせむと月待てば

潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな

課題は、額田王（ぬかたのおおきみ）が詠んだとされる和歌で、万葉集に収録されています。和歌の意味は、熱田津で船に乗ろうと月が出るのを待っていると、潮の流れも（船出の条件と）合致した。さあ、今こそ漕ぎ出そう、というもの。

熱田津は愛媛県の海岸とされ、船は663年の白村江の戦い（はくすきえの戦い）に赴く日本軍の軍船らしい。朝鮮半島で当時勢力を持っていた国々の争いで、日本も出兵した。

額田王（ぬかたのおおきみ、生没年不詳。女性）は、飛鳥時代の日本の皇族・歌人。天武天皇の妃と伝えられる。絶世の美女だったという説もあるが不明。九州の出兵拠点まで軍船にのったのか？勇ましい気合が伝わる和歌だ。

額田王 万葉集の歌碑 於：松山護国神社

